

令和4年12月6日（火）

『I 高松市美術館入門編』

まず、高松市美術館のコレクションについての説明がありました。

高松市美術館のコレクションは

「戦後日本の現代美術」

「20世紀以降の世界の美術（版画）」

「香川の美術（漆芸・金工）」

この3つを柱として系統的に収集を行っているそうです。

次に12月に開催中のコレクション展第3期の作品について、画像を見ながら解説がありました。

**展示室1** テーマは「もじのちから」

一見すると、水墨画にしか見えないのですが、よく見ると風の音や鳥の鳴き声が文字で書かれている作品。（福田美蘭《秋景山水図》《冬景山水図》《夏景山水図》《春景山水図》）

愛と笑いをテーマに、手書きの文字をシルクスクリーンという技法で表現した作品。

（イチハラヒロコ《恋する美術だ。》《愛はまだか。》

《あのときははやすぎて、いまではおそすぎる。》

《いつも、気にしていた。ずっと、探していた。》）

など、絵の中に文字が隠れている作品を展示しています。

**展示室2** テーマは「讃岐漆芸ってなんだ？ —技法と風景—」

讃岐の漆芸は趣のある美しい作品が多く、上品な輝きを放っています。

その技法には「存清」「蒟醬」「彫漆」があります。作品の画像を見ながら、この3つの技法についての説明を聞きました。

漆芸作品を展示している展示室2は湿度・温度の管理が重要で、特に湿度は高めに設定しているそうです。

美術鑑賞、中でも現代アートという敷居が高いとか、見方がわからないという声も多いのですが、お二人からこんな見方はどうですかという提案がありました。

- どんな人が作ったのか。
- いつ作ったのか。
- どうして作ったのか。
- 何で作ったのか。
- 何を作ったのか。
- 誰と作ったのか。

など、新しい視点で作品を見るのが新しい発見につながるそうです。

以上のお話を聞いて、高松市美術館のアートカードを使ったゲームをしました。一人の方が選んだカードの作品を、周りの方が質問をして当てる推理ゲームです。

- 例：人が描かれていますか？ → いいえ  
植物が描かれていますか？ → はい  
カラフルですか？ → いいえ

↓

「さて、どの作品のカードでしょうか」



質問する側も、答える側も、作品について観察力が必要になります。みなさん初めは少し遠慮気味でしたが、次第に熱が入ってきて、「え、そんな物あった？」とか「気がつかなかったわ」など高度なやり取りで、受講した方全員とコミュニケーションが取れるようになっていました。

このように、一つの作品をじっくり観察することで、細部の表現に気づいたり、自分とは全く違った視点で作品を捉えることにつながったようです。

現代アートはとっつきにくいという思い込みを取り除くことにつながるゲームでした。